

香港の粵劇によせる思い——役者の立場から

陳慧思

（粵劇役者・香港粵劇曲藝協會副主席）× 樋泉克夫（愛知大学現代中国学部教授）

樋泉克夫

（愛知大学現代中国学部教授）

承前…二〇一六年九月初め、香港島・跑馬地（ハッピーバレー）近くのビルの一角にある陳慧思女士のスタジオを訪ねる。所狭しと並べられた粵劇伴奏用の楽器を眺めていると、どこからともなく粵劇の調べが聞こえてくるような錯覚を覚えた。

時に亮相（見得）を切るかのようにカッと目を見開き、時に遠くを眺めるように視線を送り、時にコロコロと明るく唱うような口調で、時に驚くほどに野太い声を挙げて香港の粵劇を熱く語る。千変万化する表情は、まるで実際の舞台姿を彷彿とさせる。「さすがに役者！」などという感想は、あまりにも失礼に過ぎるだろう。

会いについてお聞かせください。

香港における粵劇の「昨日」

樋泉 今日日は香港における粵劇の「昨日・今日・明日」というテーマで、私の観劇体験などを踏まえながら、いろいろ伺いたいと思います。まず粵劇との出

陳 私は一九八六年に粵劇を始めまして、それ以前は英語の歌を唱っていました。香港では曲芸から粵劇へと転ずるアマチュアの人々がだんだん多くなってきたので、七〇年代から粵劇を習い始めまして、八六年に本格的に粵劇を演ずる

ようになりました。当時は弟子入り制度でして、師匠は鄧碧雲です。テレビでの出演が多いので、ご存知だと思います。同じように龍劍笙は任劍輝、白雪仙に弟子入りしたわけです。

その後、九〇年からは師匠に個人的に弟子入りするというのではなく、プロの粵劇関係者千人ほどの組合である八和会館（一八八九年に広州で組織された粵劇関係者団体を起源とする。香港では一九五三年に広州八和会館分会の形で発足、その後、独立し香港八和会館として現在に至る）で新人を育てるようになりまして、二年前からですが香港政府の援助を得て、八和会館の下に置かれた油麻地

陳 慧思 [Lydian Chan]

粵劇役者、香港粵劇曲芸協会副主席。1960年代の粵劇をリードし「藍牡丹」で知られた鄧碧雲の一番弟子。艶と張りのある舞台姿が魅力。現在、香港の粵劇を代表する「旦」(おやま)。右はご自身のスタジオで楊琴を奏でる姿。



戲院ゲキインを使って新人の育成ができるようになりました。その他に、いくつか粵劇を上演する場所も提供してもらいました。たとえば沙田大会堂は粵劇団体と協力関係を結び、使用予定の一年前から劇場使用の申請ができるようになりました。粵劇公演を専門とする大型の新光大戲院だけでは場所が足りないわけですし、新光大戲院は使用料金も高額ですから、私たち粵劇役者にとっては劇場使用料が安いに越したことはありません。

樋泉 観客、役者ともに年齢層はどうでしょうか。

陳 ほとんどが私たちのような年齢です。正直なところ粵劇だけでは生活ができませんので、若い役者は少ない。致し方ありません。

樋泉 香港でも若者は粵劇に興味はないんでしょうか。どこの国でもそうですが、伝統的な演劇に興味がないようですね。

陳 そうです。それだけで生活するのはとても難しいからです。私は香港大学を卒業しましたが、粵劇を職業にすると聞

いて、周りの人が「あなたは変だね」と。役者一本では、やはり生活が覚束ないのです。

樋泉 それでは改めまして、香港の粵劇の「昨日」から伺いますが、香港の粵劇はいつから始まったものでしょうか。

陳 大分昔からです。盛んになったのは一九四〇年代頃で、日本占領期の後でしようか。広州で演じられていたものが、香港に伝わってきたわけです。

樋泉 日本占領時期以前の香港で粵劇公演は如何でしたでしょうか。

陳 粵劇の公演はありましたが、あまり流行ってはいません。日本降伏後、香港の方が商売しやすいから粵劇役者が広州からやって来ました。しかし、やはり広州の方が本場ですし、粵劇役者も多かったわけです。

樋泉 日本が降伏した後、香港の粵劇界はどのような状況でしたか。

陳 当時は粵語（広東語）映画の流行期として、芳艷芬、任劍輝、白雪仙、新馬師會など有名な粵劇役者は例外なく粵語（広東語）の映画に出演していました。映画

に較べたら粵劇はあまり盛んではありませんでした。

七〇年代当時は粵劇に足を運ぶ客もほんのわずかであり、粵劇役者は映画で糊口を稼ぐ有様だったのです。粵劇だけでは生活ができなかったからです。任劍輝の弟子の陳宝珠すら、粵劇の舞台から遠ざかるほどでした。ところが八〇年代に入ると粵劇復活の兆しがみえるようになりました。キツカケは任劍輝と白雪仙が組織した雛鳳鳴劇団だったでしょうか。

二人が主演した《帝女花》や《再世紅梅記》が利舞台で上演されるや大人気を博し、これを機に粵劇復興の兆しが見えるようになったのです。林家声や汪明荃も粵劇を演ずるようになりました。

樋泉 香港の粵劇は七〇年代の半ば以降に再び流行し始めたわけですね。その当時、粵劇の常打ち劇場はあったのでしょうか。

陳 当時は利舞台、新舞台、香港大舞台、普慶戲院など伝統と格式を持った大きな劇場がありました。ここでは粵劇の常打ちはしていません。たとえば「荔

園」という遊園地には常打ちの小屋があり、若手もベテランも演じていました。カネのためとってしまつては身もフタもありませんが。遊園地の入園料さえ払えば、無料で観劇ができました。

樋泉 私は一九七〇年秋に香港中文大学の新亜研究所に留学しましたが、当時は無謀にも「戯迷」（芝居狂い）を旨指して三、四年間、毎夜、荔園に駆けつけたものです。映画の《七小福》の世界そのままに、童伶が京劇を演じていました。彼らは尖沙咀に在った春秋戲劇学校の生徒で、校長の粉菊花は確か中華人民共和国建国以前の上海で刀馬旦（立ち回り専門の女形役者）だったはず。

陳 そうです。その学校はもうなくなりました。

樋泉 啓徳空港の方にも常打ち小屋があり、時々、粵劇を見にいった記憶がありますが。

粵劇と香港と文革

陳 ありましたね。啓徳戲院も無料でした。

た。昔は粵劇の小屋も方々にありましたが、今はもうありません。でも粵劇専門の新光大戲院が営業しています。その他の劇場は政府の管轄下にあり、申請しなければ上演できません。

樋泉 「昨日」に関連するのですが、文化大革命が香港の粵劇に与えた影響についてお話し願えますか。

陳 影響はありましたね。当時は思想の問題ということで洗脳教育を行いました。「除旧」(旧いものを打ち壊すことを目的とする政治運動)が行われ、昔の流派は捨てられて、新しい粵劇が創造され、《沙家浜》《紅燈記》などの革命現代粵劇が演じられました。凡て洗脳が目的であり、従来の粵劇は捨てられました。それというのも昔の粵劇は文革が目の敵にした「四旧」(旧い思想・旧い文化・旧い風俗・旧い習慣)の典型ですからね。樋泉 では大陸の文革が、新しい粵劇を通して香港にも影響を与えたということですか。当時の革命現代粵劇についてどう思いますか。

陳 全く納得できません。私は古い流派

が好きでして、個人的には粵劇にせよ京劇にせよ、革命モノは好きにはなれませんがね。

樋泉 文化大革命が香港の粵劇に与えた具体的影響があった、と考えてもよろしいでしょうか。

陳 ありましたね。当時、香港の役者のなかには革命現代粵劇に新鮮味を感じ、実際に大陸に学びに行った例もあります。しかし結局は古典モノが醸し出す「艶」がないことが判りました。たとえば伝統的な粵劇の台詞では韻脚、つまり韻を踏みますが、革命モノにはありません。これは粵劇の伝統に反します。伝統劇の台詞には上句・下句という概念がありますが、文革当時の粵劇監督はそれを捨てました。ですから新しい役者は、上句・下句にせよ韻脚にせよ粵劇の基本的仕組みが全然わかりません。これは芝居としては前進ではなく明らかな後退です。粵劇の基本は「唱做唸打」——「唱」(うた)、「做」(しよさ)、「唸」(よむ)、「打」(立ち回り)です。この基本を失ったら粵劇ではないのです。監督制になり

公演上の全権を握るようになったことから、素人であれ監督が言ったことが絶対視されてしまいましたから。

樋泉 中国では文革の際、若い役者が年寄りの役者に「四旧」の烙印を押して徹底批判し、時に命を奪うこともあったわけですが、そういった「革命的行為」が伝統的な芝居をダメにしたんじゃないですか。香港の粵劇界でも同じようなことはありましたか。

陳 そうですね。大陸では名優の紅線女が街頭の掃除をさせられましたね。名のある役者が畑仕事や便所掃除をさせられる一方で、粵劇を知らない人物が監督になったりして、もうメチャメチャでしたね。

樋泉 紅線女の悲劇に、香港の粵劇役者は何を感じたのでしょうか。

陳 たとえば羅家英の兄さんの羅家宝も監禁されましたが、彼はマカオで行政長官を務めた何厚鐸の父親である何賢に救出され香港に逃れてきました。香港の粵劇界にとって衝撃的事件であったことは確かです。

樋泉 紅線女はどうしてああいう風にひどい仕打ちを受けたのか。彼女が批判された理由は何だったんでしょうか。

陳 思想の問題でしょう。大陸では政権がある人を批判する場合、反政府だとか、思想に問題があるとか、大体そういう理由を使いますからね。

樋泉 その後の紅線女は。

陳 釈放された後もトップスターでした。若い頃の舞台は、それは素晴らしかったですよ。でも政治の影響を受けたこともあり、晩年はあまり感心しませんでしたね。

樋泉 紅線女のほかにどんな役者の舞台が記憶に残っていますか。

陳 やはり女性では芳艷芬。男性では林家声でしょうね。

樋泉 香港の粵劇が一番盛んだったとされる八〇年代を代表するような役者さんを挙げて戴けませんか。

陳 そうですねえ、新馬師曾、何非凡、麥炳榮、その後が林家声になりますか。残念ながら新馬師曾の芝居は見たことがありません。この時代の粵劇を語る場

合、任劍輝、白雪仙は外せません。それから芳艷芬。紅線女もそうです。もともと香港でやっていたんですが、脱税問題で中国に逃げましたね。加えるなら梁醒波でしょうか。それに私の師匠だった鄧碧雲です。

樋泉 いま名前が挙がった役者さんたちは、どのようにして粵劇を身につけたのでしょうか。

陳 すべて弟子入りです。

樋泉 京劇に科班（役者養成機関）はありますが、粵劇にも科班がありますか。

陳 七〇年代までは「仙鳳鳴」「大龍鳳」「艷陽天」、それに私の師匠が作った

「碧雲天」など数多くありました。今はすべてなくなってしまうました。

粵劇役者になるまで

樋泉 とところで陳さんはどういう風に粵劇を稽古したんですか。

陳 七〇年代まで私は英語の歌を唱っていました。八〇年頃に師匠の鄧碧雲と出会い粵劇を学べと言われ、直接指導さ

れました。当時の香港では粵劇を学ぶ術がなかったものですから師匠の指示で広州に行き、八〇年から八三年の間だったでしょうか。羅品超の粵劇学院で基礎を学んで後、香港に戻り師匠の手ほどきを受けました。

広州では主に「把子功」（武器を操っての立ち回り）、「走圓台」（各種の歩き方）、「水袖」（袖さばき）など「做」（しよさ）を学び、「唱」（うた）は香港に戻ってから稽古をつけてもらいました。広州では「唱」はあまり重要視されていませんでしたから。

樋泉 粵劇に興味を持ったきっかけは何だったのでしょうか。

陳 最初は陳百強と一緒に英語の流行歌を唱っていたのですが、粵劇役者だった彼の父親の勧めで粵劇に興味を持ち、やがて師匠の鄧碧雲と出会い素質を認められ、粵劇の道に本格的に足を踏み入れたわけです。

樋泉 英語の歌と粵劇の「唱」にはどのような違いがありますか。

陳 英語の歌とは較べられないほどに、

粵劇の「唱」は難しいと思います。

樋泉 確かにそうですね。私も少し齧った程度ですが、京劇の「唱」も至難ですね。どうして中国の人はそんな難しい「唱」を好み、そして演じるのでしょうか。陳 それは粵劇の「詞（かし）」の美しさを伝えようとするからでしょう。著名な粵劇作家の唐滌生の「詞」は美しく、その美しさを表現するためには、やはり、それ相応の「唱」の技法がなければなりませんから。そのことを、粵劇の舞台上に立つと痛感します。

樋泉 話は代わりますが、歌舞伎をご覧になって何か感じられたことは。

陳 何度か歌舞伎観劇の機会がありましたが、まず「唱」でしょうか。粵劇にせよ京劇にせよ、中国の古典劇の醍醐味は「唱」にありますから、「聴戲」です。その点、歌舞伎は「看戲」的要素が強いように思います。たとえば歌舞伎で使う髪飾りは素晴らしいと思います。（自らの舞台写真を示し）これは歌舞伎の髪飾りを真似たもの。一カ月前の写真です。やはり普通の中国風に較べ断然ステキです。

樋泉 これは何という芝居ですか。

陳 林家声の《龍鳳争掛帥》です。龍貫天と共演しました。

樋泉 九〇年代初めから一九九七年の返還時期にかけて香港の粵劇がさびれてきたようだとのことですが、どこに原因があつたのでしょうか。

香港における粵劇の「今日」

陳 まず何と言つても観客がいないことです。いま粵劇「票友」（素人役者）の金持ちは粵劇公演があるとチケットを買い占め、知り合いなどに配ります。コンサートや「折子戲」（長い演目のさわりを演ずる）が流行つていて、プロの役者

さんを招聘して一緒に舞台に立つ方もいます。客向けにお土産付きの場合もありますよ。新光大戲院で芝居をするときもそうですが、粵劇好きのおばあさんたちが劇場の外で「ただのチケットはないか」と聞いてくることも少なくありません。樋泉 なぜチケットが売れなくなつてしまったんでしょう。人々の興味が失せて

しまったのですか。

陳 私たちも何度か政府に要求します。先週も香港の議会である立法会で観客養成の必要性を訴えました。現在、粵劇の客を増やすため、学校に向いて英語で粵劇を教え、彼らと、その親たちに粵劇への興味を持たせるよう努めています。

新人役者養成もさることながら、問題は観客が育たないことです。ある統計によれば、身銭を切つて粵劇を見ようという人は現在の香港には一万人くらいしかいません。もちろん無料にお土産付きは別ですが……。

樋泉 粵劇が変わらず時代の風潮に合わない。人々が古典的教養を重んじない。かくして粵劇が社会から忘れ去られる……ということですか。

陳 そうとも言えません。考えられる要因としては、まずは有名な役者の出演料が高いこと。それで必然的にチケットも高価にならざるをえない。高額のチケットを買つてまで観劇しません。ごく普通の劇団の場合は三百ドル（一香港ドル＝一四円強。二〇一七年二月末）前後です

みますが、有名な劇団となると話が違います。この間、龍劍笙が香港に戻って舞台に立ちましたが、チケットは八百ドル。夫婦で見ると千六百ドル。これに食事会なども加われば、軽く二千ドルは飛んでしまう。とても高い。先週の陳宝珠の公演は千ドルでした。

樋泉 現在、一回の公演に要する費用はどれほどでしょうか。チケット代金だけで採算が合いますか。

陳 一般的にいつて公演には一〇万ドル前後が必要でしょうか。劇場使用料金が五万ドルほど。チケット代金は抑えに抑えて三百ドルです。私どもの香港粵劇曲芸協会では公演資金の援助もします。香港で最大級の入れモノである座席数千三十三の新光大戲院の場合、舞台寄りの三百席ほどが三百ドル。残りは百ドルで老人は半額の五〇ドル。これに我が協会の支援を加えることで、公演が成り立ちます。

我が協会は粵劇振興を目的にプロの役者や楽師が組織した団体で、多くの篤志家の浄財で運営されています。私は役者

です。から協会主催で公演する場合は、高額の出演料というわけではありません。

八和会館が新人役者養成を支援するようになり、私ども協会も粵劇に興味を持つ若者支援を目指しています。多くの役者に公演機会を与えようと協会を組織する一方、観客養成にも努めています。伝統継承には、やはり観客を育てるのが一番大事です。

樋泉 香港政府は粵劇に対し、どのような姿勢・政策で臨んでいるのでしょうか。陳 正式な援助はあまり多くないですが、八和会館を側面支援しています。それから粵劇発展基金からの援助です。粵劇公演を企画した際、基金に対し資金的援助を要請できます。

粵劇の観客を育てよ

樋泉 粵劇の「明日」を考えた場合、やはり役者と観客——両面での養成がカギになると思いますが、この点についてのお考えをお聞かせください。陳 需要さえあれば、新人を育てること

はあまり難しくないと考えますが、決定的な問題は需要がないことです。八和会館では多くの新人を育て、毎晩、傘下の油麻地戲院で公演しています。ですから、それなりに新人は育っています。やはり問題は観客です。客席が寂しかったら、役者は育ちません。

樋泉 八和会館で育てている新人の年齢層は。

陳 すべてが若者というわけではなく、中には年を取った人もいます。当初は四〇歳以下に制限すべきだと主張しましたが、最終的に四〇歳以上にも稽古は開放されています。やはり脇役があつての主役ですから。現在、二〇代が最も若いでしょうか。子供はいません。

樋泉 でもあまり年を取っていると体が硬くなっていたり、喉がダメだったり、芸を学ぶのが難しいのではないのでしょうか。

陳 それはそうですが、年を取った人は脇役に回します。主役は任せられませんが、やはり柱になる役どころは、若者に学ばせることになります。

樋泉 いま芸を身につけても、これから商売として成り立つのでしょうか。

陳 ですから今は役者も観客も新人を育て、将来にうまくバトンタッチできるように願っています。

樋泉 観客養成には、どんな方法をとっているのでしょうか。

陳 なによりも大切な点は観客に演者の情熱、誠意をみせなければなりません。ある時期、役者が稽古もしないで舞台上に立ったこともあったようですが、これは観客に感動を伝えることは不可能です。やはり稽古に十分時間を取って舞台上がってこそ、観客は役者の芸に引き込まれるわけです。ですから、新人には口を酸っぱくして稽古の重要性を訴えています。稽古に稽古を重ねてこそ、舞台に夢のような世界を描き出すことができますし、そうやってこそ観客にも喜びを与えられます。最近、私たちの公演は例外なく満員状態ですが、これも稽古の積み重ねによりです。役者の熱意に観客が誠意で応えてくれるのです。

樋泉 日本では歌舞伎普及のために、役

者が学校に出掛けて公演するなど、それなりの努力を重ねていますが、香港では、こういった試みは。

陳 私たちもやっています。私も瑪利諾神父教会学校という中学校で粵劇を教えています。生徒の反応も悪くありませんね。

樋泉 古典モノは生徒たちには判り難いと思うのですが、反応は如何ですか。

陳 子供たちの好き嫌いや父兄の要望を考慮して、私はこんな教え方をしています。まず「詞」を英語に翻訳して内容を理解させ、次に音楽の先生方に事前をお願いし英語と広東語の発音を学ばせておいてから「唱」を教えています。粵劇の「詞」をそのまま教えても古典の素養がない子供たちには意味が理解できませんから、「唱」を教えるだけでも感情が込められないので平板な唱い方になってしまい、生徒の興味を引き出すことは不可能です。私の方法ですと、英語と広東語と粵劇が同時に学べ、さらに中国文化の一端に触れることができますので、父兄にも好評なようです。

樋泉 両親はともかく、子供たちの反応は如何ですか。

陳 なかなかですよ。たとえば《帝女花》を教えたんですが、テレビから《帝女花》の一曲が流れると、私にも唱える子供たちには大喜びでした。遅々とした歩みですが子供たちにも粵劇が浸透しているようです。それから、一昨年、城市大学でも教えました。正規の単位をつく講義で、受講生は三百人ほどでした。教壇で「馬鞭」(鞭であると共に馬を表現する小道具)など小道具に関する「程式」(やくそくごと)を教えて、学生にそれを体験させました。靴は高いので足首を痛めるな。ケガしても自己責任ですよなどと注意しておきましたが、受講生の反応がとてよくて、教室はとて盛り上がりました。こういった教授法でまづは十分だと思えます。ともかくも粵劇の仕組みを理解してもらおうことが肝心ですから。

香港における粵劇の「明日」

樋泉 将来的に粵劇は明るくと思いますか。

陳 時間をかけて、いろいろな工夫をしなければいけないと思います。やはり後世に残すためには、次代を担う若者に沿った方法で伝えるのが我々の世代の責務ですね。

樋泉 歌舞伎では柱になる役者の一族——たとえば市川家の場合、團十郎という名跡が祖父から、父へ息子へ、息子から孫へと伝わり、ともに舞台における團十郎の所作・芸風は「お家の芸」として市川家に伝わります。一方、中国の場合、譚家などのように譚鑫培、小培、富英、元壽、孝曾、正岩と一九世紀末から現在まで途切れることなく京劇役者を輩出している家系もありますが、それとも市川團十郎という名跡のように初代からはじまり二代目、三代目と続くわけはない。梅蘭芳にしてもご子息の梅葆玖も飽くまでも梅葆玖であって二代目梅蘭

芳とは名乗らない。この違いは、何に因るのでしょうか。

陳 現在の香港を考えますと、たとえば阮兆輝、彼の妻は尹飛燕で息子は阮德鏘です。それから、かつて私がしばしば共演した梁漢威ですが、彼の息子は梁煒康です。羅家英もそうです。彼の父羅家權と兄の羅家宝も役者です。血で繋がる役者一族は見られますが……。

樋泉 でも同じ名跡を名乗るわけではありませんね。

陳 そういった習慣は粵劇にはありませんが、思いつくのは一座の名前で、「仙鳳鳴」があつて、龍劍笙の時に「雛鳳鳴」になりました。

樋泉 日本では血脈と芸の形や芸風の継承を重んじる。だが中国ではそうではない。かねてからの疑問なのですが、ここに日中の文化的な違い——私は文化とは〈生き方〉〈生きる形〉〈生きる姿〉と考えています——があるように思うのですが。

陳 そこまで考えたことがありませんが、たとえば紅線女の弟子の郭鳳女は

「女」の字を使っていますが……。こういった例は極めて珍しいですね。

樋泉 たとえば二〇世紀初期に多くの京劇役者を輩出した代表的な科班である富連成科班の場合、ここで学んだ役者には「喜」「連」などの一文字を芸名に挟んで——たとえば侯喜瑞、馬連良のように——卒業年次を表していました。これは芸風や芸の形には関係がない。

名跡を継承することとは先代の芸風や形を継承することと同義なわけですが、中国には、こういう習慣がないというところは芸の形や芸風はその役者一代で完結するということを意味する。言い換えるなら粵劇であれ京劇であれ、役者は誰もが一代限り、ということでしょうか。陳 直接のお答にはなりません。たとえば私の師匠は私に芸を伝えてくれましたが、師匠と弟子の間には血の繋がりはありません。今の香港を考えると、粵劇では生計を立てるのが難しいからでしょうか。歌舞伎役者の家に生まれたら歌舞伎役者になるよう運命づけられるなんて窮屈です。日本より香港の方が思想は開

放的ですね。粵劇役者の子供だからと
いって、粵劇役者になるよう強要される
わけではありませんし。やはり子供は子
供ですよ。それより子供には他の道で大
いに稼いで欲しい。これが香港の親心と
いうものです。

消えゆく「廟会」

樋泉 日本では歌舞伎は一時は客の入り
が良くなかったわけですが、興行会社が
力を入れて役者を育てると同時に観客も
育てた。政府だけでなく役者も特に役者
の家系とは無縁だが素質の有る若者を選
んで次代の役者を育て、梨園の裾野を拡
大することに努めています。その成果も
あり、現在では歌舞伎の人気——もつと
も役者の人気でもありますが——も高ま
り、チケット購入が困難といったこと
もしばしばです。香港の粵劇の場合、日本
の興行会社にあたるようなシステムは介
在していないのでしょうか。
陳 私たちの協会がそのような組織で
すが、こういう組織は少ないです。

樋泉 おそらく陳さんが副主席を務める
協会にしても、興行会社というわけでは
ないでしょう。やはり公演にはプロの興
行会社が必要だと思いますが。

陳 残念ですが、香港には、そういった
プロはいません。

樋泉 以前は廟会で神様に感謝を込めて
公演する「酬神戯」がよく見られました
が、現在は如何ですか。

陳 依然として廟会での粵劇公演はあり
ます。廟会が行われる三、四日の間、廟
の敷地内に臨時に舞台を組み——これを
「棚」といい、棚で演じられるから「棚戯」
といいますが——公演します。その廟に
祀られている神様を信じていない人でも
観劇できますから、とても良い風俗だと
思いますが、最近の市街地には「棚」を
組む空き地がなく、また「棚」を建てる
許可が政府からなかなか下りない。昔は
市街地には空き地が多く、どこでも「棚
戯」を公演できましたが、今は無理です
ね。離島の長洲島など数か所ですが「棚
戯」にはお目に掛かれませんが。加えて公
演日数も短くなってしまいました。

樋泉 廟会における公演が香港における
粵劇を下支えしていると思うだけに、
「棚戯」の衰退は寂しい限りですね。以
前、香港で「棚戯」が見られなくなった
要因を、市街地の再開発と農村部で積極
展開される不動産開発による空き地の極
端な減少に関連させて論じたことがあり
ますが、香港の経済発展に伴う土地の
“効率的利用”が伝統風俗を衰退させて
いる。哀しいことです。

ところで現在では香港と広州とで粵劇
の交流はありますか。

陳 あります。広州でも観客が少なく
なってきましたので、観客を粵劇に呼び
戻すために香港の役者を招きます。逆の
場合もあります。先日、私と同じ舞台を
踏んだ李秋元も広州の役者です。

樋泉 広州の役者の芸はどうでしたか。
陳 いい役者ですよ。ですから「最近優
秀人才引进計劃」に基づいて、彼は香港
のIDを取得しました。

なぜいま、香港で
《粵劇・毛沢東》なのか

樋泉 一〇月の国慶節には新光大戲院で《粵劇・毛沢東》が公演されますが。

陳 主役の毛沢東を演ずるのは、私も共演する龍貫天です。私が承知しているところでは一〇カ月ほど前から話し合いが始まり、脚本家の李居明からは龍さんに「毛沢東を舞台にかけよう」と考えるが、演ずる意志はありますか」と。そこで龍さんは「あなたに脚本を書く意志があるなら、私は演じましょう」と応じたことで、本格的に準備に入ったとか。

樋泉 脚本家は香港の人ですか。

陳 はい、香港人で非常に著名な風水師です。

樋泉 どういう内容でしょうか。

陳 私が承知しているところでは、毛沢東と鄧小平に関するものだそうです。おそらく毛沢東に関するエピソードとか女性関係とか……。

樋泉 なぜ、いま、香港で《粵劇・毛沢東》なのでしょうが。

陳 観客を引き付けることができるし、社会的な話題となるからです。

樋泉 それは政治的な関心からでしょうか。それとも毛沢東に対する人間的な興味なのでしょうか。

陳 政治的な原因だと考えます。親中派はどういう風に書かれているのかを見たし、反中派の人は何か批判できないか、と。

樋泉 陳さんは、客の入りをどう想像しますか。

陳 きつと、多くが押し掛けますよ。友人の多くも観劇を予定しているようですから。

樋泉 同時期の公演予定の《粵劇・蝶々夫人》については。

陳 《粵劇・蝶々夫人》はチケットの売れ行きがダメで、チケットを配っている状態だそうです。チケットをもらった友人も少なくありません。おそらく主人公の蝶々夫人が日本人だから……それに関係あるかも知れません。近年の日中関係はあまり良くありませんから。

樋泉 なぜ同じような時期に同じく粵劇

で《毛沢東》と《蝶々夫人》を公演するのか。やはり現在の日中関係から考えても、親中派・反中派の別なく《毛沢東》の方に興味を持つんでしょうか。

陳 《蝶々夫人》の舞台は江戸末期の長崎であり、やはり香港の人には興味が湧きそうにない時代設定ですね。それに最近の日中関係の状況からして、日本には少し反感を抱きますから。私たちや若い世代は比較的日本人と仲良しですが、粵劇の主な観客である老人世代からすれば日本に対する反感は拭い難いですから。樋泉 若い世代も《粵劇・毛沢東》に興味を持つでしょうか。

陳 中国を金持ちの国にしたという認識からすれば、老いも若きも毛沢東が好きですよ。

樋泉 予定では一〇月一日から五日の公演となっていますが、ロングランになるでしょうか。中国での公演の可能性は如何でしょうか。

陳 反響がよかつたら再演します。中国での公演ですが、現在の中国なら公演できます。残念ながら「劇本」（脚本）は目

にしていますが、おそらく公演時間は三時間前後では。

樋泉 いつも不思議に思うんですけど、なぜ中国では映画も芝居も日本のものに比べ長いのでしょうか。殊に長いモノが好きなんでしょうかねえ。

陳 確かに映画にせよ粵劇にせよ京劇でも長い。でも、昔はもっと長かった。現在は改善し、劇場での公演にしても七時半開演で途中一五分の休憩を挟んで一〇時四五分までが一般的です。その昔、「棚戲」は四、五時間が普通でした。

樋泉 学生に京劇の映画を見せるのですが、やはり長すぎて、時にストーリーが冗長に過ぎ、学生が辛抱できない。そこで学生に中国の人は長い作品が好きじゃないか、ということにしています。それにしても、なぜあんなにも長いのか、本当に判らない。

陳 私たちでも長いと思います。ですから現在の視点から見て不必要な演技や冗長と思われる部分を大胆にカットして、なるべく二時間半前後の公演時間に収まるように工夫します。

樋泉 たとえば現代革命粵劇の《沙家浜》にしても、ダラダラを長い演技が気になって仕方がない。演出効果、強烈な革命的メッセージを伝えるうえからいうなら、あれでは逆効果だと思いますが。

陳 古典粵劇の舞台でも、何度も何度も重複するところが多い。古い脚本には不要な部分が多いので、その部分をカットできます。もう観客には判っているはずですから、同じ台詞、同じ演技を繰り返す必要はありません。「武工」(立ち回り)にしてもそうですが、反復を繰り返すことは逆効果です。劇的效果を発揮できません。一、二回で十分です。昔の劇本を見ると、主役も脇役も同じことの繰り返しです。

樋泉 その昔、沙田の下禾筆に住んでいましたが、あの集落の廟会での「棚戲」は二四時間演じられました。途中で下宿に帰って一眠りして、また出掛けて行つての観劇でしたから、じつに疲れました。ですから最近では折子戯が流行っています。折子戯とは演目の中の一画面白い部分だけやる芝居のことです。全本

(通し狂言)で演じる場合、脇役の役者がタラれる欠点も見受けられますから。

粵劇の可能性

樋泉 香港における粵劇の「明日」を考えた場合、理想的にはどういう形になれば一番いいと思っていますか。

陳 粵劇の上演時間をもっと短くし、若者に粵劇は古いというイメージを持たせないことです。粵劇のテーマには古すぎるものも見受けられますが、それは変えることができます。その点、観客に刺激を与えることができるから《粵劇・毛沢東》はステキなアイデアだと思います。毛沢東をテーマにした粵劇だってできるのです。古典、つまり古い脚本に拘ることはないと思います。

最近演じたものに姑が嫁を追い出すというシーンがありますが、私の学生が客席の人のコメントを録音して聞かせてくれました。そのなかに「姑が嫁を追い出すなんて古すぎる。今は逆なんだね」と。時の流れに合わないようなストー

リーは、もう演じなくてもいいんじゃないでしょうか。

樋泉 もし日本で粵劇公演の機会があったら、どんな演目が考えられますか。

陳 若者向きの演目、たとえば武芸に長けた二人の若者が競う《龍鳳争掛帥》でしょうか。抹香臭いストーリーではなく、激しい立ち回りも見られる明るい物語がいいですねえ。

樋泉 それは京劇の《穆桂英掛帥》、あるいは《鉄弓縁》のような……。

陳 その二本に近いようなものですね。伝統的な粵劇は、京劇の武戯のように激しい立ち回りも重んじていますよ。

樋泉 最後に粵劇に興味がある日本の学生に伝えたいことがありますしたら。

陳 粵劇を消え去る運命にある旧い芝居だと思わないでください。香港では若者のなかにも粵劇を演ずるもの、観劇するものが生まれつつあります。粵劇の脚本はとても美しく、役者の演技によって舞台の上に夢のような物語を描き出せるのです。粵劇の所作は華麗であり、立ち回りは京劇と較べても遜色ないほどに雄

渾です。是非、香港にやって来て実際の粵劇の舞台に接してください。お願いします。

これは最近発売された私の舞台のDVDです。いま話題になった《粵劇・毛沢東》で主人公の毛沢東を演じる龍貫天がこの人で、こちらが私です。

樋泉 研究資料として確かに頂戴いたしました。今後とも粵劇の振興にご尽力ください。本日は長時間、有難うございました。

(二〇一六年九月六日 香港島・跑馬地)

* * *

補記…《粵劇・毛沢東》は毛沢東を主役に彼を巡る三人の女性——楊開慧、賀子珍、江青——を配し、朱徳、蔣介石と宋美齡の夫妻が絡み、さらにはエドガー・スノーまでが登場する。全二六場で、革命の聖地である延安を舞台に物語が展開する。好評だったようで、二〇一七年一月二六日から二九日(春節元旦を挟んだ一年廿九到大年初二)まで、同じ新光大戲院で公演された。香港のいくつつかの新

聞はプロデューサーで脚本執筆の李居明の発言として「中国のみならず、日本での公演の引き合いもある」と伝えている。

